

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第1回浅口市行財政改革推進懇談会		
開 催 日 時	平成27年4月14日（火）10時00分から11時30分		
開 催 場 所	浅口市役所2階応接室		
出 席 者 及 び 欠 席 者	【懇談会委員】 佐藤豊信会長・田口桂一郎副会長・大橋徳子・奥慎二・畑恵太郎・川手公彦・佐藤正人・妹尾義信・守屋靖・山内悦子・尾崎照子 【事務局】 富田直弘政策課長・ほか政策課2人		
傍 聴 の 可 否	傍聴可能	傍 聴 者 数	3
会 議 次 第	1 開 会 2 協議事項 1) 答申案について 2) その他 3 答申書の提出 4 意見交換 5 閉 会		
問 い 合 わ せ 先	企画財政部政策課 電話番号 0865-44-9013 〒719-0295 岡山県浅口市鴨方町六条院中3050 e-mail:seisaku@city.asakuchi.lg.jp		

発言者	内 容
事務局	欠席者、遅参者、後任者の案内。日程、資料の確認。
佐藤会長	<p>【開会】10：01 欠席者：大室照明 ご協力よろしくお願ひしたい。 資料の答申案についてご審議をお願ひしたい。事務局の説明をお願ひする。</p>
事務局	<p>【答申案について説明】 説明の後、皆様のご意見をいただきたい。</p> <p>〈前回までの意見を集約した答申案を読み上げる〉</p> <p>本答申では社会情勢、環境、状況の3つの変化に対応する力が必要になってくるということが伝わるのではないか。</p>
佐藤会長	答申案について何か意見はないか。
佐藤委員	今まで議論してきたことは含まれているので問題ない。
佐藤会長	ここで訂正したものを最終的に市長に渡すようになる。他に何か意見はないか。
守屋委員	手数料について、周囲の市町村と比較した表を前回見たところ、早めに見直すべきことだったと驚いた。このあたりの具体的な部分はどのようなになるのか。
佐藤会長	具体策は記載していないため、答申にある方向性から市職員が原価計算等どこまでやっていくかということになってくる。答申にはそこまで細部に渡って記載することができないので、市長に渡す際に言葉で伝えたい。
事務局	今月の27日の幹部会にて、本日の答申について報告し、市の方針を決めていく予定。早いものは平成27年度から事務を進めていく。当然、議会や市民にも答申と、それを受けての市の方針を周知していく。

佐藤会長	周知をするときにどれだけ分かりやすく伝えることができるかが重要。原価計算は、どのような計算のもと料金を設定しているのかを明確にしておかなければならない。多くの自治体が「美しい」答申を出した状態で終わっているの、そのようにならないよう意識してやってもらいたい。この際、答申に盛り込めないにしても、行政側に強く伝えておきたいような意見があればどんどん出していただきたい。
妹尾委員	職員の能力向上について、能力を「活かす」という言葉を入れていただきたい。
佐藤会長	能力向上と同時に「意識改革」をしていくということを一文いれておく。
山内委員	力があっても、活かすという意識がなければ前に進めない。
佐藤会長	これまでの意見を市長にも伝えていきたい。また、答申を出して終わりではなく、委員全員で行政のチェック機関としてネットワークを維持していただきたい。
事務局	2年任期ではあるが、2年目となる今年度の進捗状況はもちろん、その後も報告をさせてもらう。
佐藤会長	形として本日は手元にある答申を渡すようになっているが、先ほどの文言を訂正したものを、後日市長に渡したい。その他で事務局から何かあるか。
事務局	答申については幹部会で報告し、早急に対応していき、できたものから平成28年度当初実施に向けて動いていきたい。平成27年度の懇談会では、引き続き本庁・支所の在り方について議論をお願いしたい。
守屋委員	各幹部から話を進めていくようになると思われるが、どのような形で進んでいくのか。
事務局	減免減額の見直しから、統一した基準を設定していくようになる。

守屋委員	具体的な指摘があれば動きやすいという意見も聞いたことがある。
事務局	この答申が「具体的な指摘」になると考えている。
山内委員	補助金について、市民のニーズが高まるなか、同じ分野でも既存のものとは別に新たな組織が乱立したような場合でも、どこにも同様に対応するようになっていく。このような現状を変えるため、組織発足には明確な基準や要件がなければいけないのではないかと。声を大きくすれば簡単に話が通るようなことがないようにし、これからは自立を促すような流れにする必要がある。
佐藤会長	活動報告などの提出が望ましい。自分たちがやろうとしていることが、どれだけ価値あるものと周囲に表現し、実施後にどれだけのことのできたかを再評価することは公金をもらう側の責任である。そういったことができない団体は、税金を投入するに値しないという話になる。市民にとっても、自分たちが大切なお金を使っているという意味を考えるいい契機になる。
奥委員	自分たちの活動について説明することができる場が必要だと思う。
山内委員	未来デッサンに参加しているが、プレゼンテーションでは、より市に対して有益になるようにと意欲的になるので奥委員の指摘する部分はよく分かる。
奥委員	もらったお金をどのように使っていくかをアピールしていく場があれば。
佐藤会長	行政の人間は2、3年で変わるので、今のような意見を積み上げたものを後任者に引き継いでいけるような環境が必要になってくる。先ほどのとおり、本日の答申は手元にあるものでさせていただく。
事務局	11時に答申となっているが、時間があるので先に意見交換をさせてもらう。市長・副市長入室後に順次一言ずつ意見をお願いします。
	〈市長・副市長入室〉

事務局	佐藤委員より順に意見をお願いする。
佐藤委員	費用対効果、使用料、市民ニーズについて検討していかなければならないと考えている。
守屋委員	合併以来、手数料等の見直しがされていないことが気になった。浅口市として一体感を持っていけるよう早急に対応していただきたい。
川手委員	補助金等の制度の見直しが必要。受益者負担などについても早急に検討していただきたい。
尾崎委員	この会に参加して、市の現状を確認することができた。
畑委員	初参加ということにはなるが、答申は有意義なものとする。原価計算については非常に難しい部分があるが、方向性は間違っていないので、実現のため慎重にやる気を持って進めていただきたい。協力できることはしていきたい。
妹尾委員	市の経営は厳しいと思うが、行政が破綻することは、直接市民が影響を受けることになるので、市民と行政が共に覚悟を持って改革をしていきたい。
山内委員	ボランティア団体として参加しているが、3町のものが合併して3年になり、合併して1つになることの難しさは痛感している。補助金などについては3町の意識のまま続いているので、ここできっちり改めていただきたい。発想の転換や行動力が重要になってくると考える。また、市民みんなが無料という時代ではないので、そのあたりの意識も市民に必要なようになってくる。
大橋委員	この会は有益なものと思う。行政が助かれば市民も潤っていくはず。使用料については、設備が一律で使用料が一律とすることで、地域毎の格差をなくし、市民が納得できるものにしていただきたい。
奥委員	交付先の収支チェックと自立促進が必要になってくる。私もスポーツクラブをやっている。元は助成金を使っていたが、それもなくなり自主財源で試行錯誤しながらやっており、なんとか1年が経過した。協

田口副会長	力できるところはしていくので、自立促進の推進をお願いしたい。
佐藤会長	答申を尊重して行政改革を速やかに開始していただきたい。
佐藤会長	補助金について、合併前の状況を引きずっている。戦国時代の話をする ると、国替えで縁もゆかりもない地で大将をさせられた者がまずする ことは、領民の心を1つにすること。浅口市もこれと同じで、市民の 心の統一をやっていかなければならない。みんなで浅口市を発展させ ていこうというメッセージを市長から出していただく必要がある。ま た、市の財布は1つ。どこかで補助をすれば、どこかを削らなければ ならない。そこで辛抱しなければならないことも、市の成長を目指す うえで必要なことだと市長から語ってもらわなければならない。こ ういったことを懇談会の中で感じたので伝えさせてもらう。
事務局	時間となったので、答申書の提出をさせてもらう。市長の意見はあい さつと一緒にさせてもらう。
佐藤会長	合併10周年を目前とする中、平成33年度には現在の地方交付税から 約11億円が縮減され、経済状況の見通しも不透明であることから、 当然ながら税収の見通しも不透明になってくることとなる。この ような状況を考慮すれば、浅口市とすれば財政状況という制約条件を 十分に考慮のうえ、戦略的・優先的に取り組んでいく課題を明確にし、 実施する課題には最大限の成果をあげるべく努力し、市民生活の満足 度を高めていくことが肝要であると考えている。行財政改革は限られた人 材や財源で、ますます多様化する市民ニーズに的確に応え、浅口市の 将来における発展、および市民の幸せに寄与するものでなければなら ない。そのためには、将来ビジョンの明確化、職員の能力向上、市民 の協力、財政収入の増加、財政支出の削減の5点が必須となってくる。 浅口市における発展的かつ持続可能な行政経営を実現するためには、 市民と行政とが手を携えて取り組まなければならない。この答申を尊 重し、市民の参画する行財政改革の推進に向けた取り組みを速やかに 開始していただきたい。そして、この行財政改革の方向性の具体化に は市長のリーダーシップが大変重要になってくる。職員と一丸となっ て取り組んでいただきたい。それでは答申をさせていただきます。
事務局	答申を受けて市長からあいさつをさせてもらう。

<p>市長</p>	<p>先ほどの貴重な意見、長期の協議について感謝している。市民目線、一体感、市民の意識改革、公平感、自立などいろいろな意見をいただいた。私は1月から地区の総会に100カ所以上参加して、改革の必要性を説明している。改革自体はやってくれと言われるが、いざ各論になると首を縦にふってくれなくなる。11億というのは浅口市の財政の約9%程度にあたり、補助金の9%を削減させてほしいと伝えても、大半はNOという回答が返ってくる。各種団体についても同様であり、いわゆるメリハリが必要になってくる。要るものは要るものとして、削減できるものをしっかりと検討していくといった作業が必要であり、とにかく今やらなければならない時期に浅口市だけでなく全国がそうになっている。まずは、そのことを市民に知ってもらうこと、加えてやらなければどのようになるかを知ってもらわなければならない。市民に具体的なことを理解してもらうのは難しいことだが、みなさんの意見・答申を基にやっていかなければならない。覚悟を持って頑張っていきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>意見交換と答申を終了させてもらう。閉会のあいさつを佐藤会長にお願いする。</p>
<p>佐藤会長</p>	<p>他の自治体でも同様な行財政に関する会に参加させてもらっているところだが、浅口市の事務局は熱心に取り組んでくれたので大変助かった。厳しい意見が出ることもあったが、答申としてより良い形にまとめることができ、私自身も有意義な会であったと感じており、各委員には長期に渡る協力を感謝している。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回以降も引き続き審議をお願いしたい。これで本日の懇談会を終了させてもらう。 【閉会】11:11</p>